

文化スポーツ特別推薦入試

1月26日（月）、27日（火）に都立高校の推薦入試が行われました。高島高校では文化スポーツ特別推薦で男子バスケットボールにも3人の枠が設けられています。

今回、3枠に対して都立高校全体で見てもバスケットボールとしては最多の18人もの応募がありました。Silver Bullets の大会結果をHPなどでみたり、現部員や卒業生から評判を聞いたり、実際に部活動体験に参加して、是非この学校でバスケットボールをやりたいと数多くの中学生に思ってもらえたことを大変嬉しく感じています。

厳しい試験を突破して合格を勝ち取った皆さん、おめでとうございます。皆さんと一緒にこれから高島高校とSilver Bullets の新たな歴史を作っていくことをとても楽しみにしています。

一方、高倍率な試験となったため、悔しい思いをした受検生も数多くいたはずです。ただ、これから学力検査による入試もあり、入学のチャンスが断たれたわけではありません。ここで苦労しても、粘り強く頑張りぬくことができれば、長い人生の中では大変貴重な経験となるはずですし、今こそ人として成長するまたとないチャンスです。現部員の中でも一般入試での入学から中心選手として活躍しているプレーヤーは数多くいて、この期間の頑張りは高校入学後バスケットボールに取り組む上でも絶対にプラスに働きます。最後の最後まで、全力で戦い抜いてください。

第4支部選抜選手

2月11日（水祝）に第1支部から第4支部までの各支部から選抜されたメンバーによる、支部選抜対抗戦が行われます。

今回、第4支部選抜選手に本校部員が選出されました。（選抜メンバー15人中唯一の1年生です。）76チームもある中、自チームの選手が支部大会での活躍が評価され選抜メンバーに選ばれたことを大変うれしく思っています。

選抜チームのメンバー入りというと、選手個人に対する評価のようにとらえられがちですが、私はそうは考えていません。むしろ個人を輝かせたチームメンバーの力があっての評価であり、チームとして喜ぶべき成果だと考えています。

数多くの試合がある中で、下位回戦で負けてしまえばそれだけ選ぶ側の目に留まる機会は減り、選出されるチャンスは少なくなってしまいます。支部大会で第3位に入れたからこそ、高島から誰か選ぼうと支部選抜のコーチ陣も考えたはずです。

また、選手個人を見た時に得点をあげるプレーヤーに目が行きがちですが、試合では1人のプレーヤーが得点をあげるために、スペースを作り、パスを供給し、シュートが外れたときにリバウンドを拾うプレーヤーが必要不可欠です。チームメイトの協力なくして、1人で多くの得点をあげ続けることはできません。

今回、支部選抜に選ばれた1年生は支部大会において間違いなく得点面でチームを引っ張りました。ただ、それはスタートメンバーである残り4人の2年生がエゴを捨てて、サポートに徹したからこそできたこともあります。誰だってコートに立てば得点を取りたいし、自分自身で攻めたいのですが、チームの勝利のために後輩に主役の座を譲る2年生の献身性が支部大会において激戦を勝ち上がる大きな要因となりました。

今年のチームには、自身は脇役に回り、地味で泥臭い仕事をいとわないプレーヤーが数多くいます。彼らこそがこのチームから支部選抜選手を輩出した原動力であり、チームを支えるとても大きな存在であることは間違いません。